

食品の機能性表示に関する 消費者意向等調査結果

〔平成25年度消費者庁予算事業「新たな機能性表示制度の検討に向けた消費者意向等に関する調査事業」における大規模インターネット調査結果の概要〕

平成26年4月4日

消費者庁

調査の概要

(1) 調査の目的

規制改革実施計画(平成25年6月14日閣議決定)の決定を受け、特定保健用食品、栄養機能食品以外のいわゆる健康食品等を対象とした機能性の表示を容認する新たな方策の検討に資する基礎資料を得ることを目的に、平成25年度消費者庁予算事業として実施した。

(2) 調査設計

調査手法: インターネット調査

調査機関: 株式会社インテージリサーチ

調査対象者: 委託先である株式会社インテージリサーチの「インテージ・ネットモニター」登録者のうち、「医薬品・健康食品」の業種を除いた者

対象者設計: 上記対象者のうち、15～79歳の男女3,000名を全国の人口構成に合わせて割当抽出^(注1)

(注1)平成22年度実施の国勢調査データをベースに、人口動態などを加味して修正した人口構成比を利用

調査実施時期: 平成26年3月5日(水)～7日(金)

主な調査内容: 健康状況
健康食品の摂取状況
健康食品の区分の認知
「いわゆる健康食品」のイメージ^(注2)
「いわゆる健康食品」の購入場所、購入時の重視点^(注2)
「いわゆる健康食品」を摂取させている中学生以下の子どもの摂取状況^(注3)
機能性表示に関する認知
新たな機能性表示の在り方に関する考え 等

(注2)過去1年間に「いわゆる健康食品」(「特定保健用食品」、「栄養機能食品」以外の健康食品)、又は特定できない健康食品を摂取したことがあると回答した者を対象とした。

(注3)中学生以下の子どもに、過去1年間に「いわゆる健康食品」(「特定保健用食品」、「栄養機能食品」以外の健康食品)、又は特定できない健康食品を摂取させたことがあると回答した者を対象とした。

《対象者の群分け》

①20～64歳（疾病なし）

「診断又は疑いのある疾病」の9項目【糖尿病、脂質異常症（中性脂肪又はコレステロールが多い）、高血圧、肥満、貧血、骨粗しょう症、アレルギー（花粉など）症、関節炎、その他の疾病】のいずれにも該当しない者

②20～64歳（何らかの疾病あり）

「診断又は疑いのある疾病」の9項目のいずれかに該当する者

③65歳以上

④15～19歳

⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者

「『健康食品』を摂取させている中学生以下のお子様がいらっしゃいますか」という設問に対し、「いる」と回答した者（①～④の再掲）

※グループ①～⑤は、「妊娠中・妊娠計画中の者」を除く。

⑥妊娠中・妊娠計画中の者

「妊娠している者」と「妊娠していないが、計画している者」の合計

ここでの妊娠計画は、定期的な体温計測など、妊娠に向けて行動することを指す。

(5)統計解析

「いわゆる健康食品」のイメージや購入時の重視点、機能性表示の認知等については、グループ①（20～64歳（疾病なし））を対照群として、要配慮者グループ②～⑥との比率の差の検定を行った。また、「『いわゆる健康食品』に機能性を表示する際に最低限必要な試験」の設問（24頁）においては、食品の形状ごとに、最低限必要と考える試験・研究について聴取し、同一グループ内で比率の差の検定を行った。

統計学的有意水準は5%（両側検定）とした。

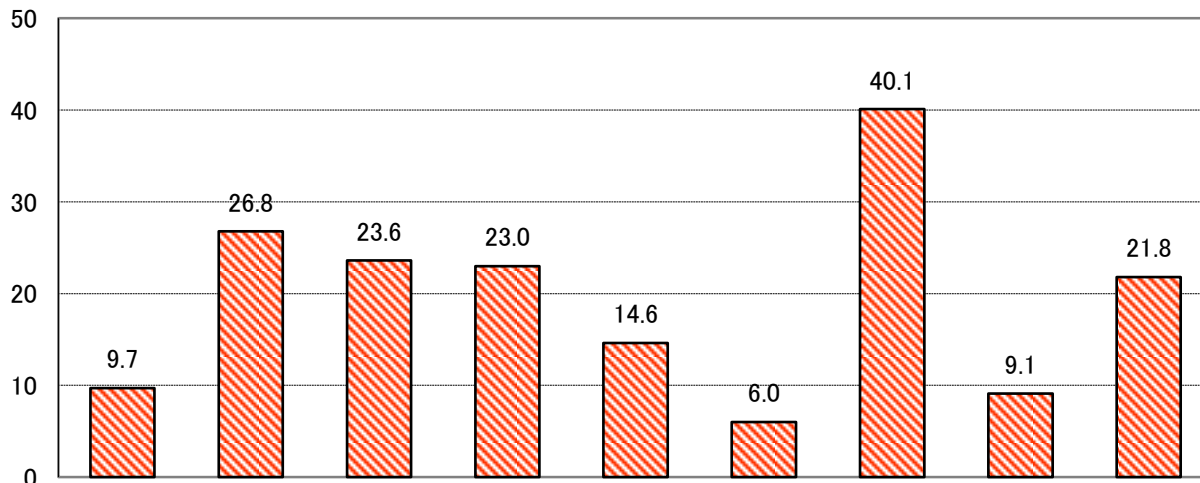
1. 診断又は疑いのある疾病

「アレルギー（花粉など）症」が40.1%と最も高く、次いで「脂質異常症（中性脂肪又はコレステロールが多い）」（26.8%）、「高血圧」（23.6%）であった。

20～64歳のうち、疾病がない者の割合は25.5%、何らかの疾病がある者の割合は74.5%であった。

問 次のうち、あなたが今までに医療機関や健康診断で疾病があると「診断」又は「疑いがある」とされたことはありますか。
（複数回答）

(%)



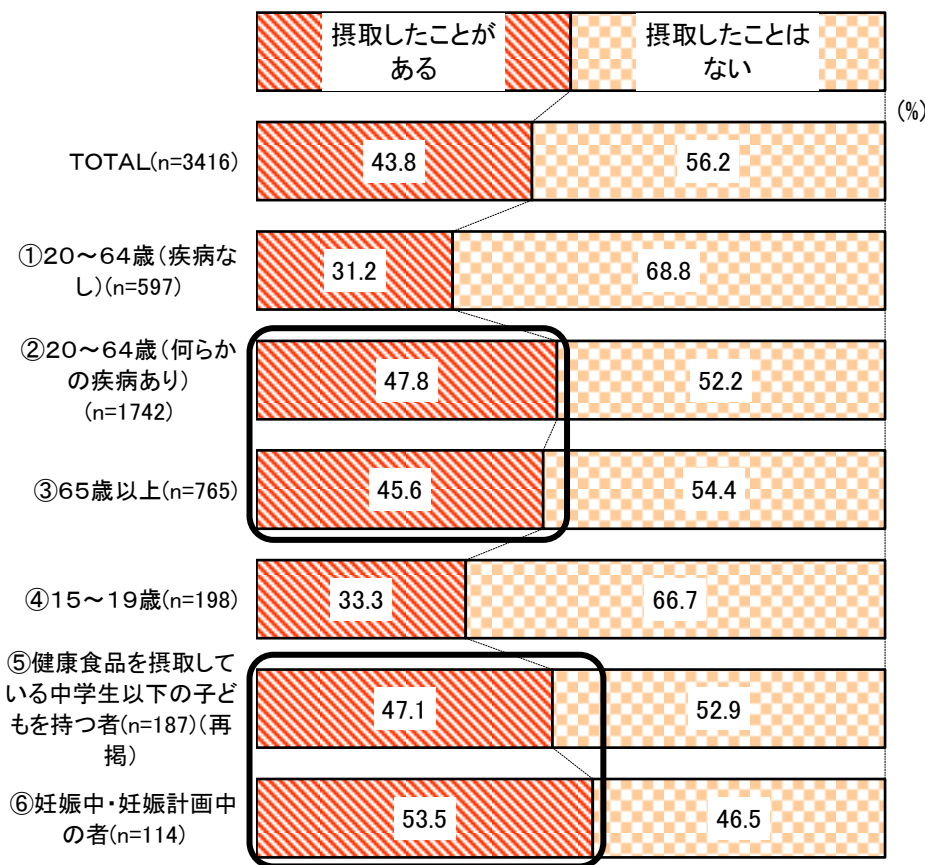
	n=	糖尿病	脂質異常症 (中性脂肪 又はコレス テロールが 多い)	高血圧	肥満	貧血	骨粗しょう症	アレルギー (花粉など) 症	関節炎	その他の疾 病	(%)
TOTAL	3,416	9.7	26.8	23.6	23.0	14.6	6.0	40.1	9.1	21.8	(%)
①20～64歳 (疾病なし)	597	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
②20～64歳 (何らかの疾病あり)	1,742	10.7	33.0	25.0	33.0	20.3	4.9	57.9	10.2	26.2	
③65歳以上	765	18.2	43.0	47.5	23.4	10.8	14.9	27.5	16.5	33.9	
④15～19歳	198	0.5	1.5	1.5	8.1	17.7	1.5	46.5	2.5	9.6	
⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者 (再掲)	187	6.4	16.6	15.5	23.0	18.7	3.7	40.6	5.9	9.1	
⑥妊娠中・妊娠計画中の者	114	3.5	9.6	3.5	12.3	24.6	2.6	51.8	2.6	7.9	

2. 最近1年間の「健康食品」の摂取状況

最近1年間に「健康食品」を摂取したことがある者の割合は全体の43.8%であった。
 グループ①に比べ、グループ②③⑤⑥では「健康食品」の摂取割合が有意に高かった。
 「健康食品」のうち最も多く摂取されていたものは、「特定保健用食品(トクホ)」で全体の44.7%であった。

問 最近1年間に、あなたは「健康食品」を摂取したことがありますか。

(本設問では、「健康食品」は無定義で聴取)



問 あなたが、最近1年間に摂取された「健康食品」は、どれですか。(複数回答)

	n=	特定保健用食品(トクホ)	栄養機能食品	トクホ、栄養機能食品以外の「いわゆる健康食品」	どれか分からないが摂取したことがある
TOTAL	1,495	44.7	31.2	38.4	26.6
①20～64歳(疾病なし)	186	44.6	29.6	38.7	24.7
②20～64歳(何らかの疾病あり)	833	49.3	35.1	38.8	23.4
③65歳以上	349	31.5	22.6	39.0	33.0
④15～19歳	66	54.5	28.8	30.3	30.3
⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもの持つ者(再掲)	88	48.9	44.3	33.0	25.0
⑥妊娠中・妊娠計画中の者	61	45.9	34.4	37.7	34.4

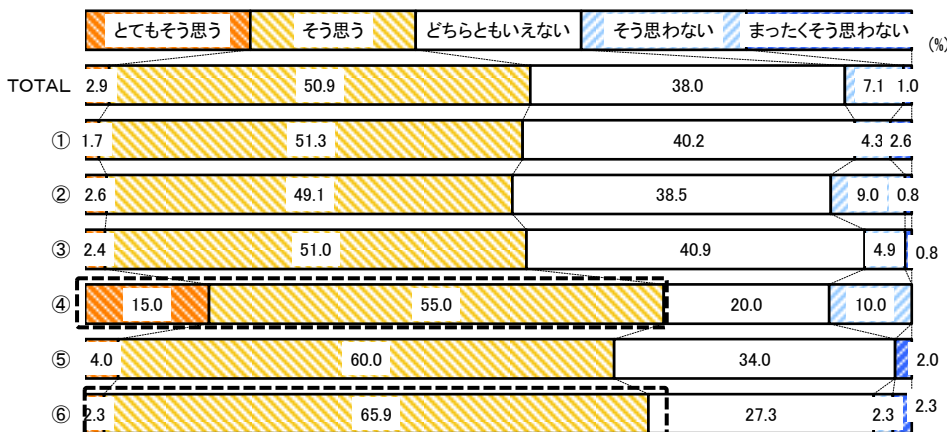
3. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における「いわゆる健康食品」に対するイメージ(1)

「摂取することで、病気が治る」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ④⑤で高い傾向にあった。

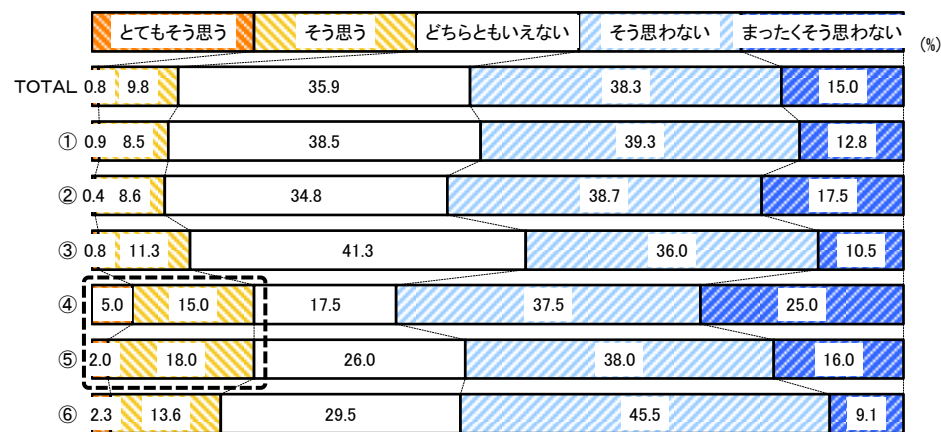
「『いわゆる健康食品』も、全て国が認可している」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ③④で有意に高かった。

問 あなたが摂取されている「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)、あるいは、特定できない健康食品に対する、イメージやお考えについておうかがいします。あなたは次の内容についてどのように思いますか。

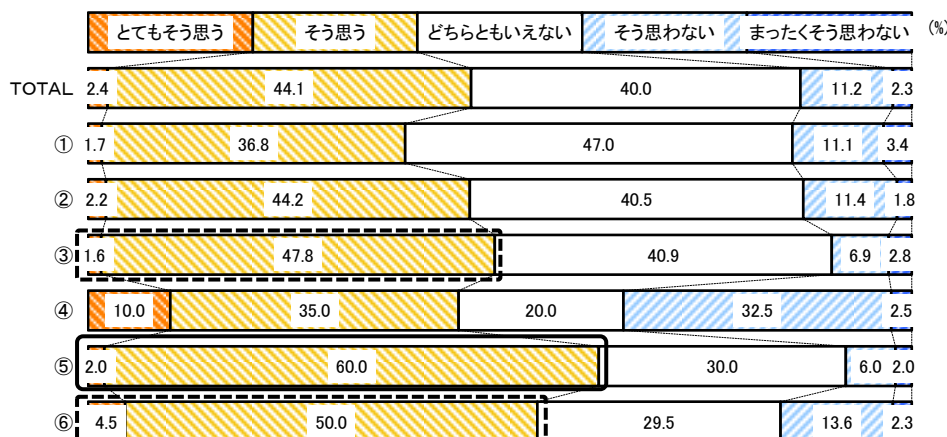
(1) 摂取することで、健康を維持できる



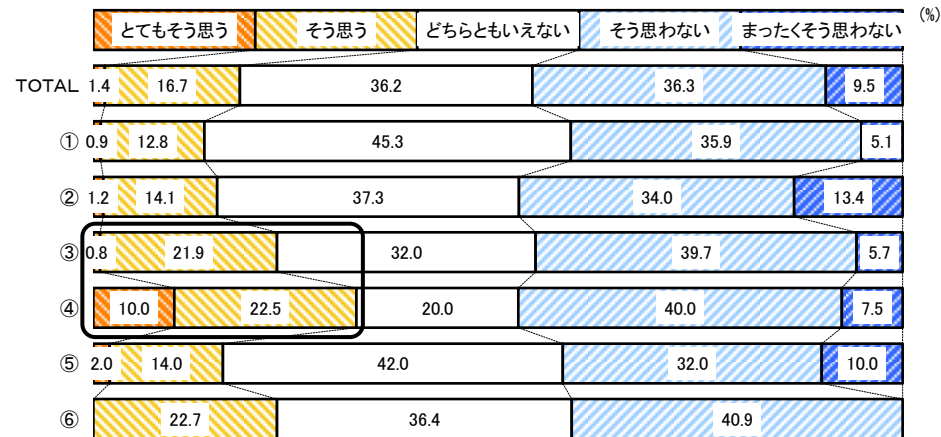
(3) 摂取することで、病気が治る



(2) 摂取することで、病気の予防になる



(4) 「いわゆる健康食品」も、全て国が認可している



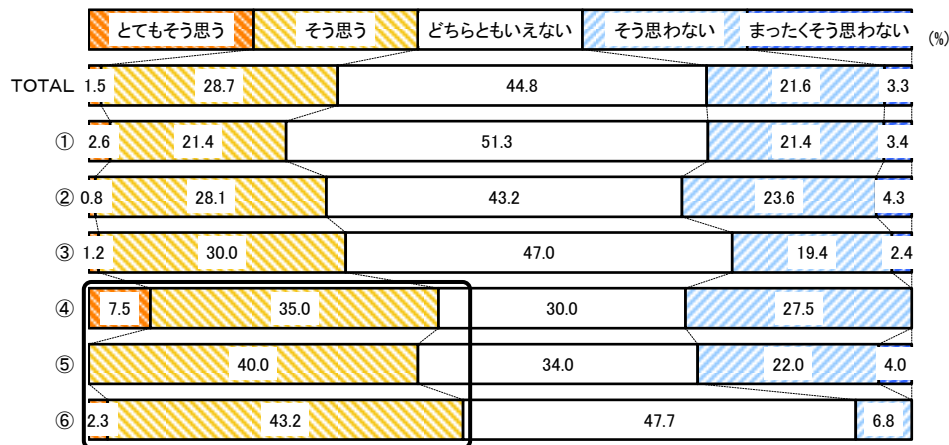
①20～64歳(疾病なし)(n=117)、②20～64歳(何らかの疾病あり)(n=509)、③65歳以上(n=247)、④15～19歳(n=40)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=50)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=44)

3. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における「いわゆる健康食品」に対するイメージ(2)

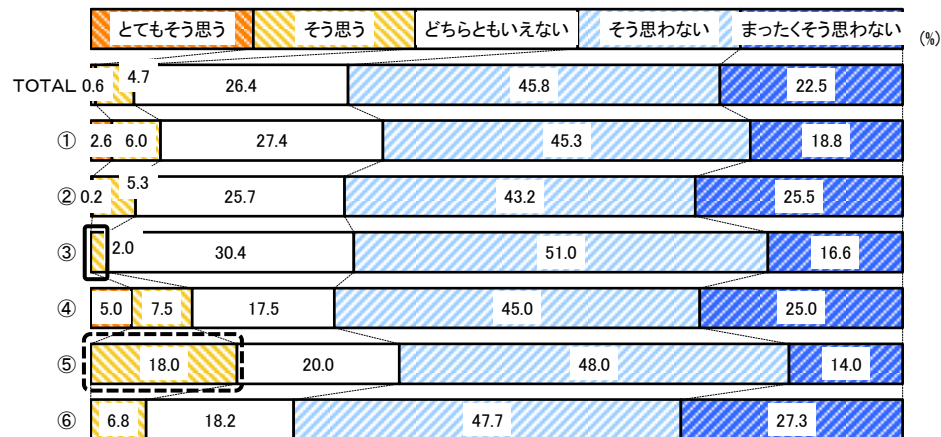
「試験などで安全性が証明されている」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ③④⑥で有意に高かった。

「複数の種類を同時に摂取すると、効果が高くなる」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ④で有意に高かった。

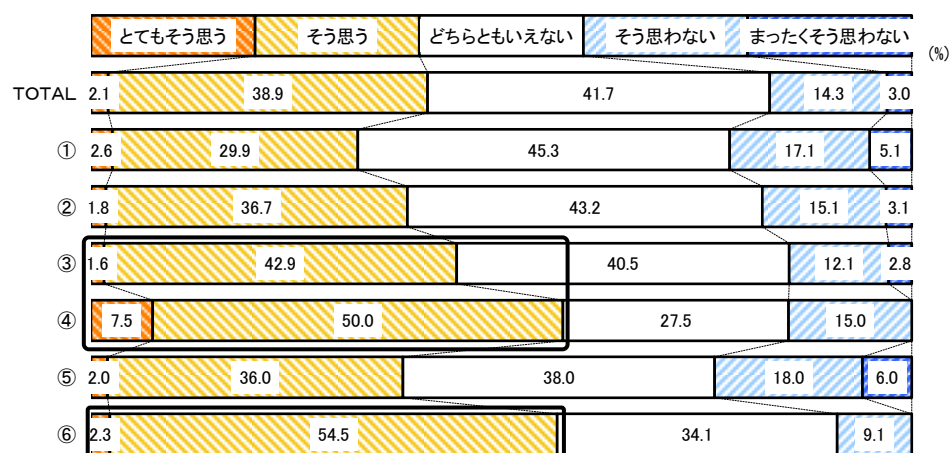
(5) 試験などで効果があると証明されている



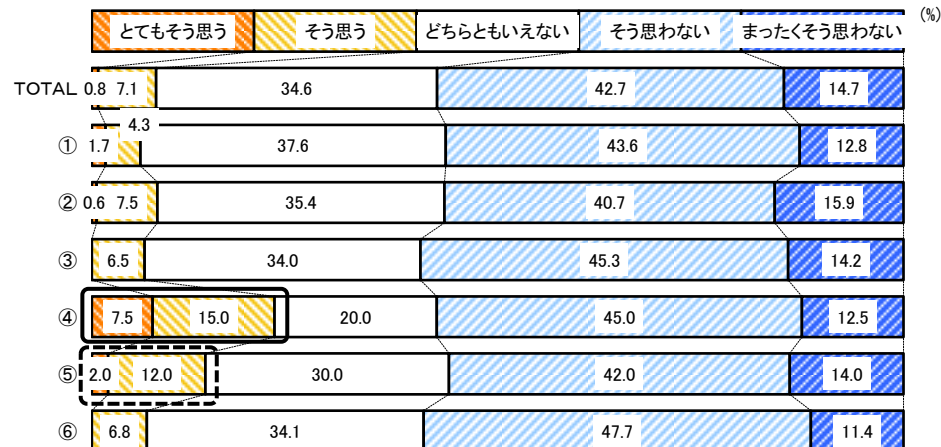
(7) 多く飲むほど、効果が高くなる



(6) 試験などで安全性が証明されている



(8) 複数の種類を同時に摂取すると、効果が高くなる



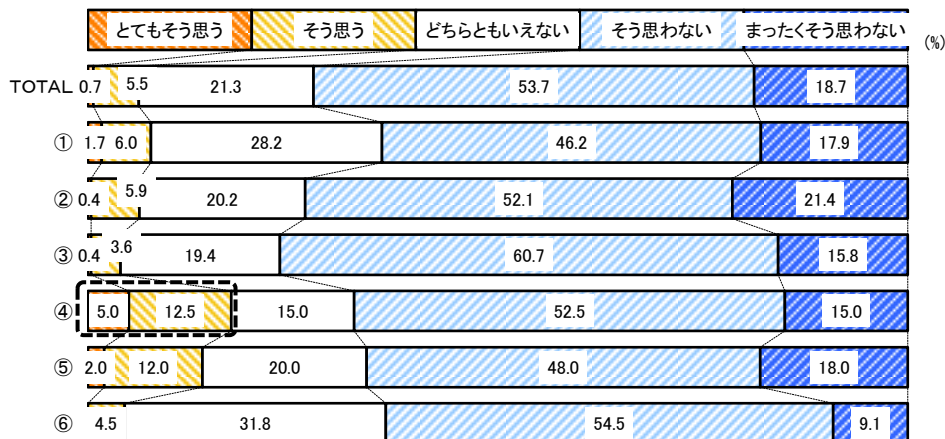
①20～64歳(疾病なし)(n=117)、②20～64歳(何らかの疾病あり)(n=509)、③65歳以上(n=247)、④15～19歳(n=40)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=50)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=44)

3. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における「いわゆる健康食品」に対するイメージ(3)

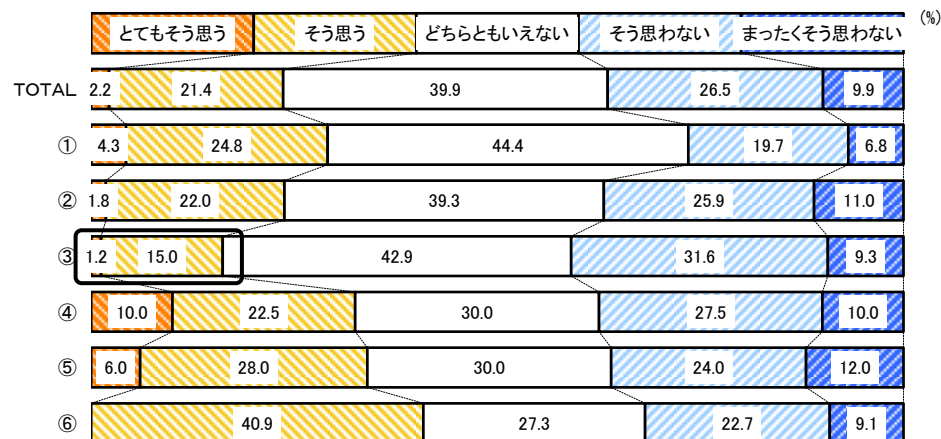
「医薬品との同時利用で医薬品より高い効果が期待できる」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ④で高い傾向にあった。

「原材料が天然由来のものは、より安心して摂取できる」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ⑥で有意に高かった。

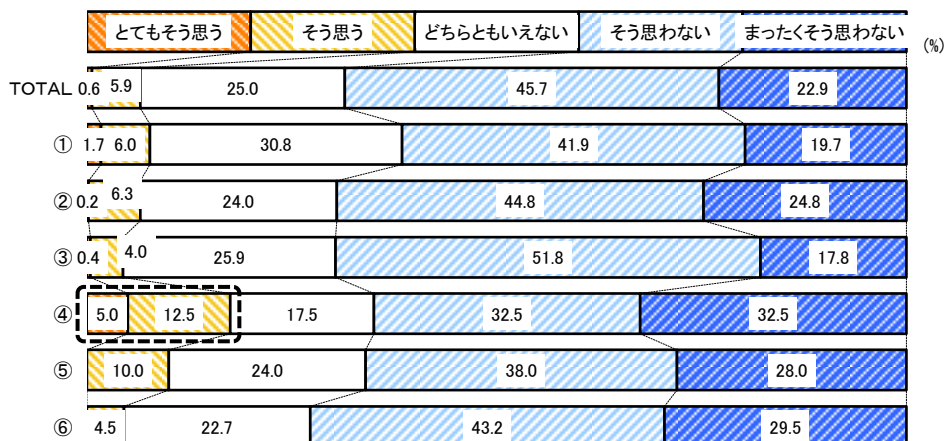
(9) 年齢等に関係なく、誰でも同じような効果が期待できる



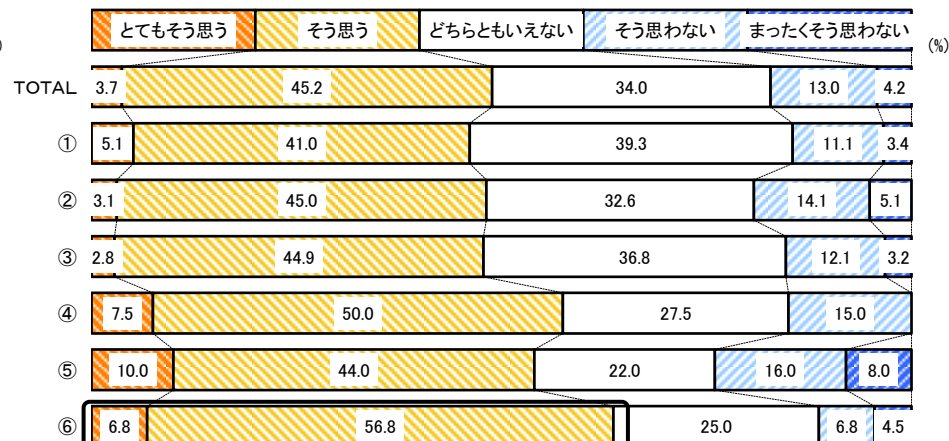
(11) 医薬品よりも安心して摂取できる



(10) 医薬品との同時利用で医薬品より高い効果が期待できる



(12) 原材料が天然由来のものは、より安心して摂取できる

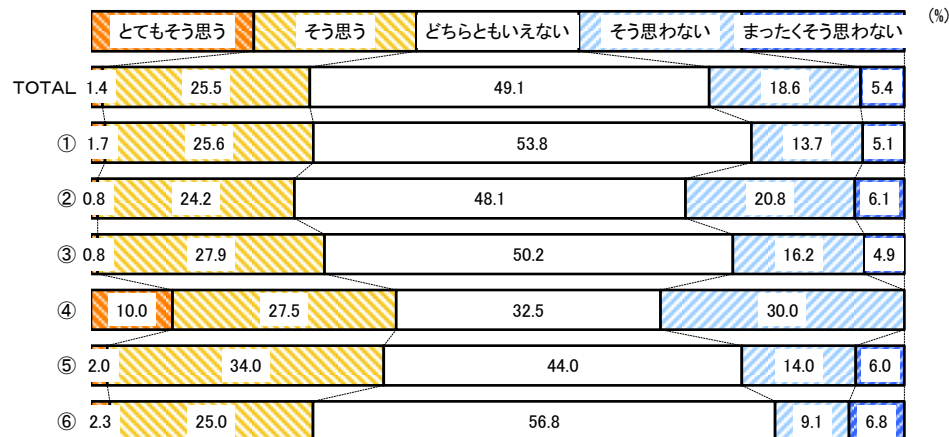


①20～64歳(疾病なし)(n=117)、②20～64歳(何らかの疾病あり)(n=509)、③65歳以上(n=247)、④15～19歳(n=40)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=50)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=44)

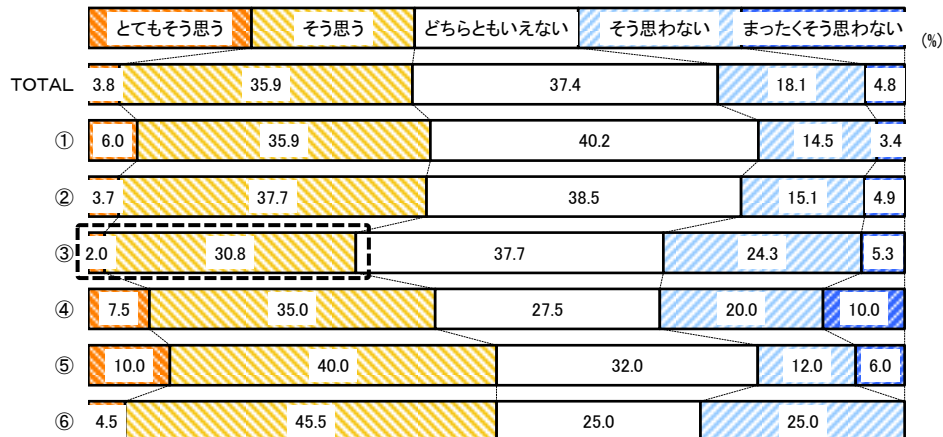
3. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における「いわゆる健康食品」に対するイメージ(4)

「食事では摂取しにくい栄養成分を摂取することができる」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ③で有意に高く、グループ②⑥で高い傾向にあった。

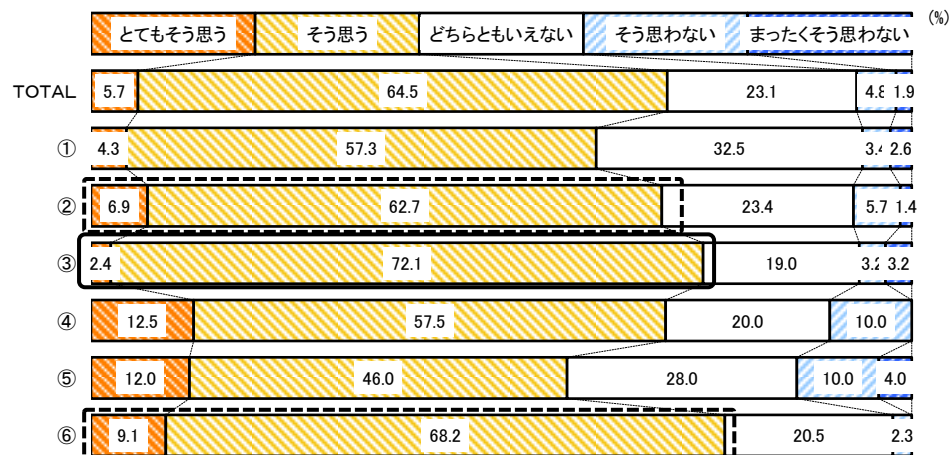
(13) 有効成分が凝縮されているので、効果が高い



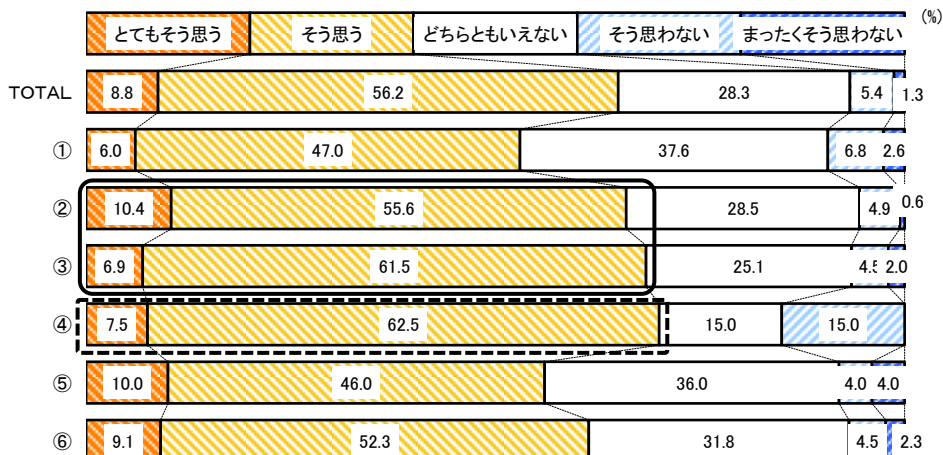
(15) 医薬品よりも健康食品で病気を予防したい



(14) 食事では摂取しにくい栄養成分を摂取することができる



(16) よい影響を与えるものも、そうではないものもある



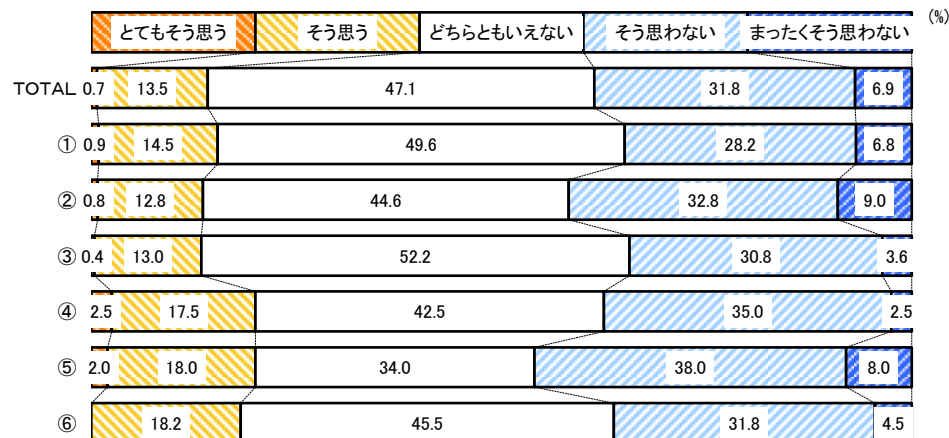
①20～64歳(疾病なし)(n=117)、②20～64歳(何らかの疾病あり)(n=509)、③65歳以上(n=247)、④15～19歳(n=40)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=50)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=44)

3. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における「いわゆる健康食品」に対するイメージ(5)

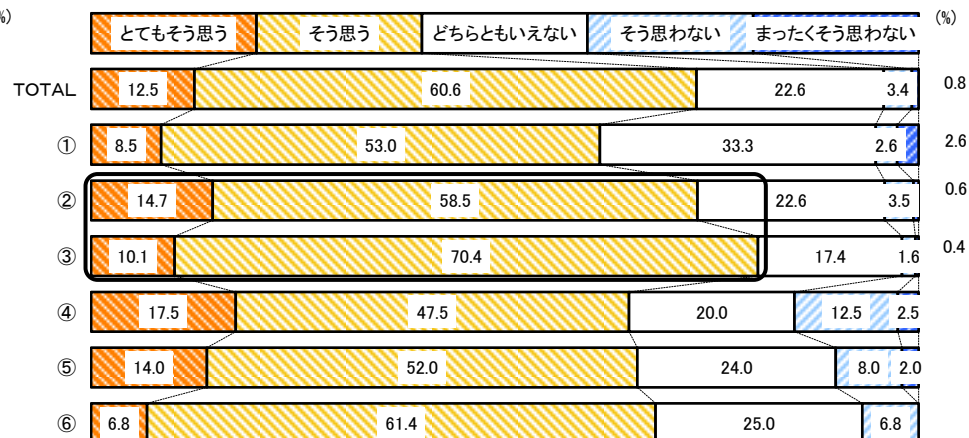
「製品パッケージの表示を、しっかり見て選ぶ必要がある」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、ほとんどのグループで有意に高かった。

「厳しい品質管理のもと、製造・販売されている」と思う者(「とてもそう思う」と「そう思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ③④⑥で有意に高かった。

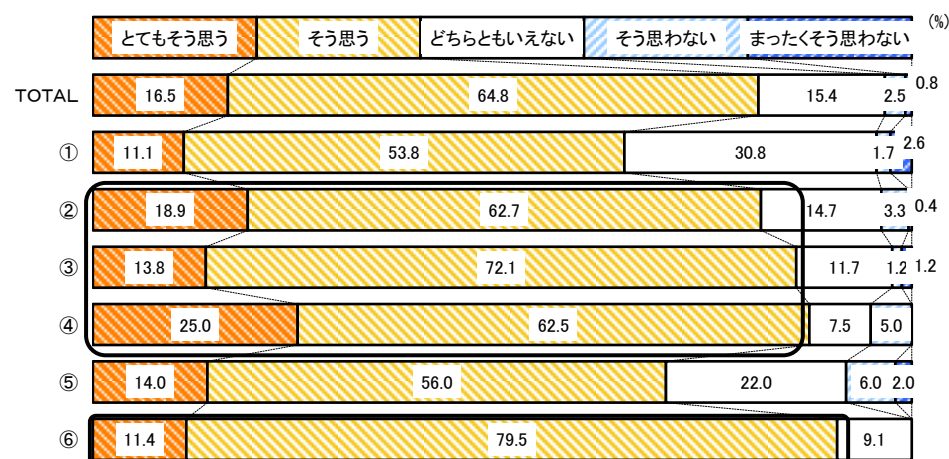
(17) 摂取することで、健康被害が出ることは少ない



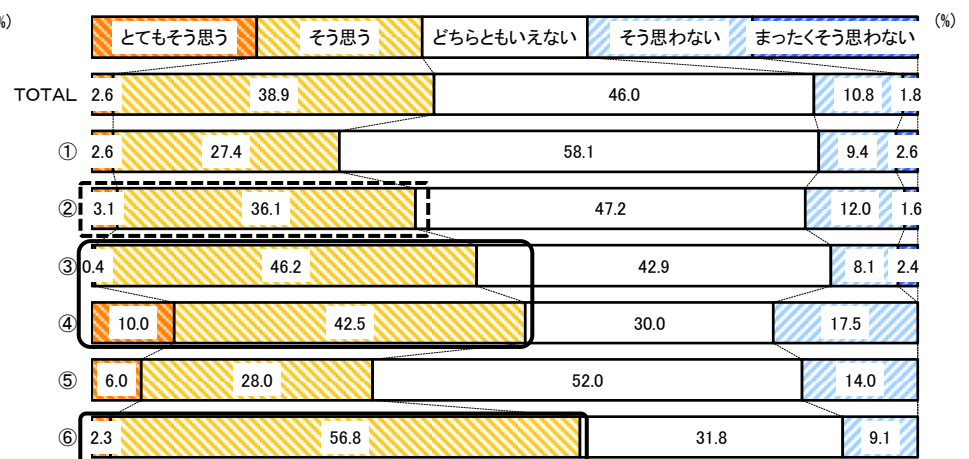
(19) 製品パッケージ以外の情報も調べて選ぶ必要がある



(18) 製品パッケージの表示を、しっかり見て選ぶ必要がある



(20) 厳しい品質管理のもと、製造・販売されている



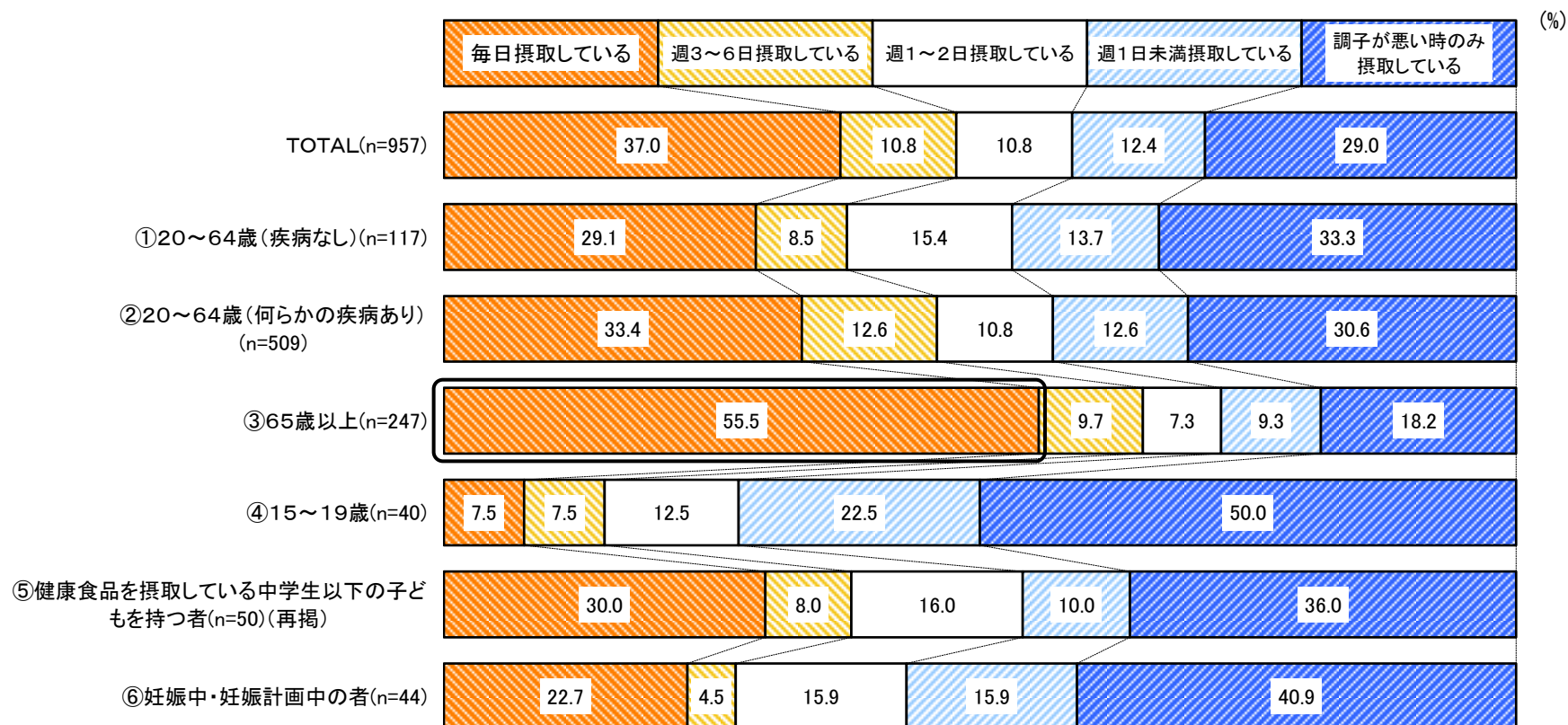
①20~64歳(疾病なし)(n=117)、②20~64歳(何らかの疾病あり)(n=509)、③65歳以上(n=247)、④15~19歳(n=40)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=50)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=44)

4. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における摂取頻度

「いわゆる健康食品」を毎日摂取している者の割合は全体の37.0%であった。
 グループ①に比べ、グループ③では「毎日摂取している」者の割合が有意に高かった。

問 あなたが摂取されている「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)、あるいは、特定できない健康食品の摂取頻度をお答えください。

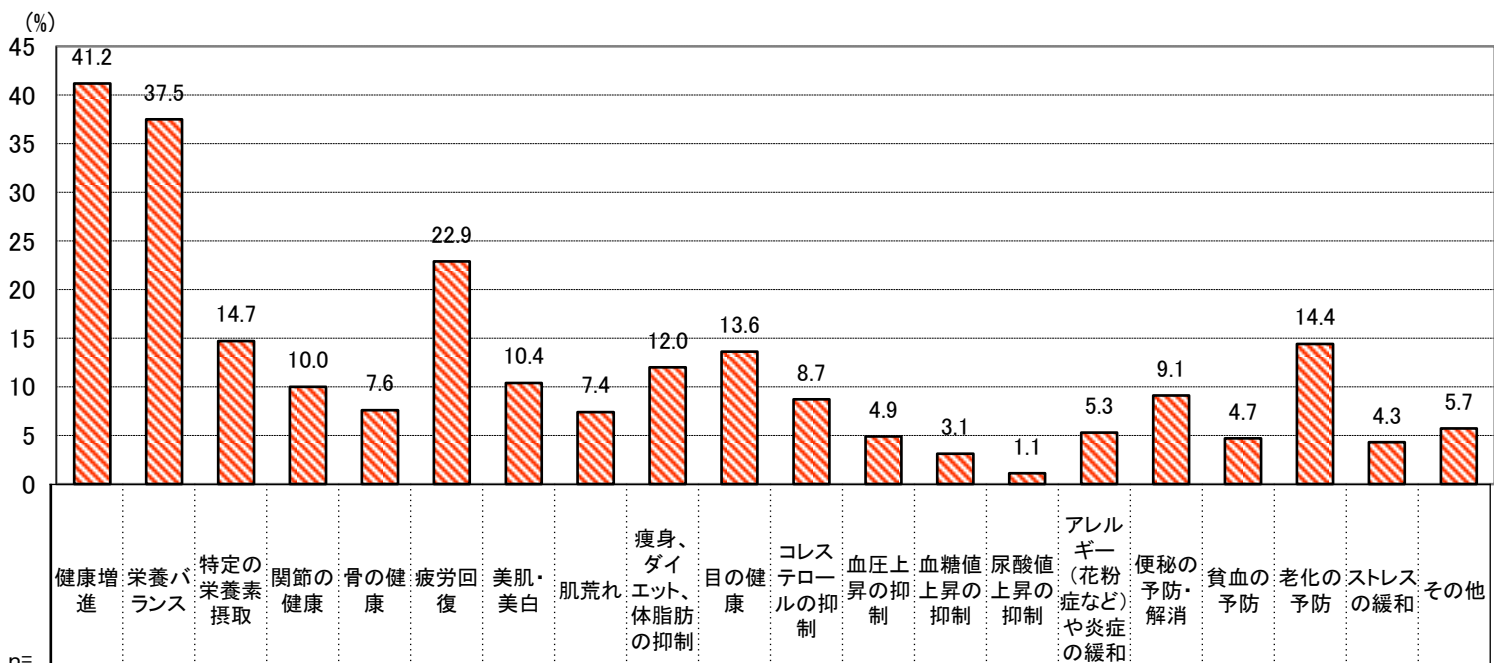
※複数の製品を摂取されている場合、もっとも摂取頻度の高いものについて、お答えください。



5. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における摂取目的

「いわゆる健康食品」の摂取目的について、最も多いのは「健康増進」で41.2%、次いで「栄養バランス」(37.5%)、「疲労回復」(22.9%)、「特定の栄養素摂取」(14.7%)であった。

問 あなたが摂取されている「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)、あるいは、特定できない健康食品について、摂取の目的をお答えください。(複数回答)



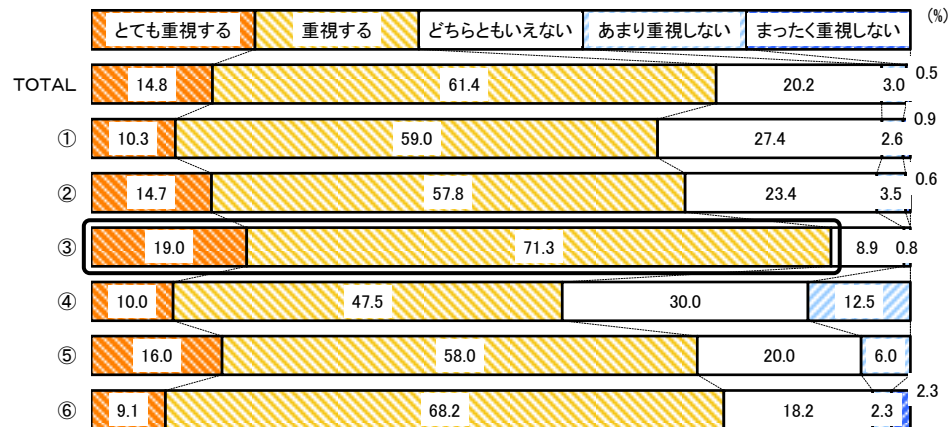
	n	健康増進	栄養バランス	特定の栄養素摂取	関節の健康	骨の健康	疲労回復	美肌・美白	肌荒れ	痩身、ダイエット、体脂肪の抑制	目の健康	コレステロールの抑制	血圧上昇の抑制	血糖値上昇の抑制	尿酸値上昇の抑制	アレルギー(花粉症など)や炎症の緩和	便秘の予防・解消	貧血の予防	老化の予防	ストレスの緩和	その他
TOTAL	957	41.2	37.5	14.7	10.0	7.6	22.9	10.4	7.4	12.0	13.6	8.7	4.9	3.1	1.1	5.3	9.1	4.7	14.4	4.3	5.7
①20～64歳(疾病なし)	117	45.3	45.3	8.5	5.1	3.4	27.4	13.7	6.8	11.1	11.1	6.0	0.9	1.7	0.9	0.9	7.7	3.4	12.0	2.6	1.7
②20～64歳(何らかの疾病あり)	509	40.3	38.5	15.7	8.1	6.1	23.4	11.6	9.0	16.5	12.2	9.0	4.5	3.7	1.0	7.5	7.9	5.1	11.6	6.1	4.9
③65歳以上	247	44.9	28.3	13.4	19.4	14.6	21.5	5.7	0.8	2.4	19.4	11.3	8.5	3.2	1.6	2.8	11.7	2.0	25.5	1.6	9.3
④15～19歳	40	22.5	47.5	15.0	2.5	5.0	25.0	12.5	25.0	15.0	12.5	5.0	5.0	0.0	0.0	12.5	10.0	12.5	2.5	2.5	7.5
⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)	50	44.0	46.0	14.0	4.0	6.0	40.0	14.0	14.0	22.0	10.0	10.0	8.0	2.0	2.0	8.0	4.0	8.0	6.0	12.0	4.0
⑥妊娠中・妊娠計画中の者	44	36.4	47.7	27.3	0.0	0.0	11.4	13.6	11.4	13.6	4.5	0.0	0.0	2.3	2.3	0.0	11.4	11.4	2.3	4.5	4.5

6. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における購入時に重視する点(1)

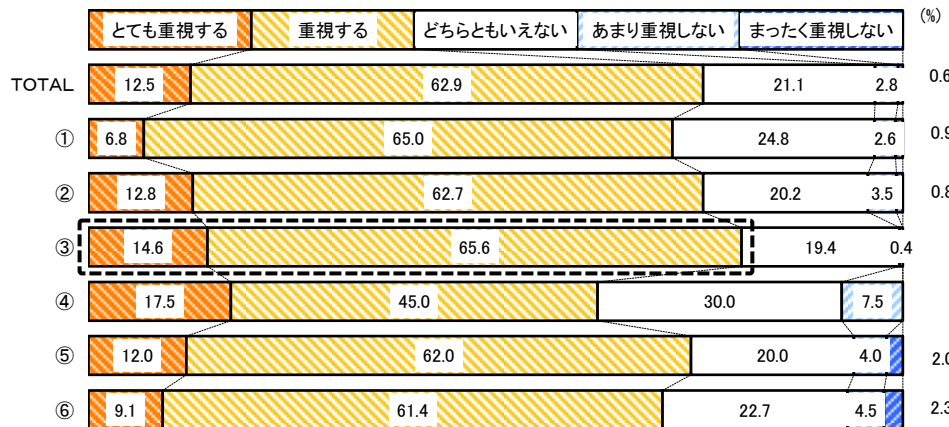
「厳しい品質管理のもと製造・販売されていること」、「有効成分の種類」、「安全性」を重視する者(「とても重視する」と「重視する」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ③で有意に高かった。

問 あなたが摂取されている「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)、あるいは、特定できない健康食品を購入する際、以下の項目をどのくらい重視しますか。

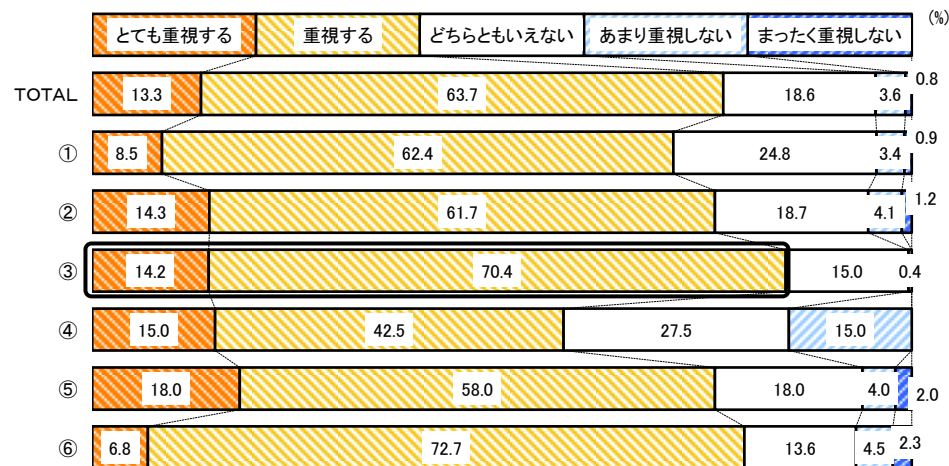
(1) 厳しい品質管理のもと製造・販売されていること



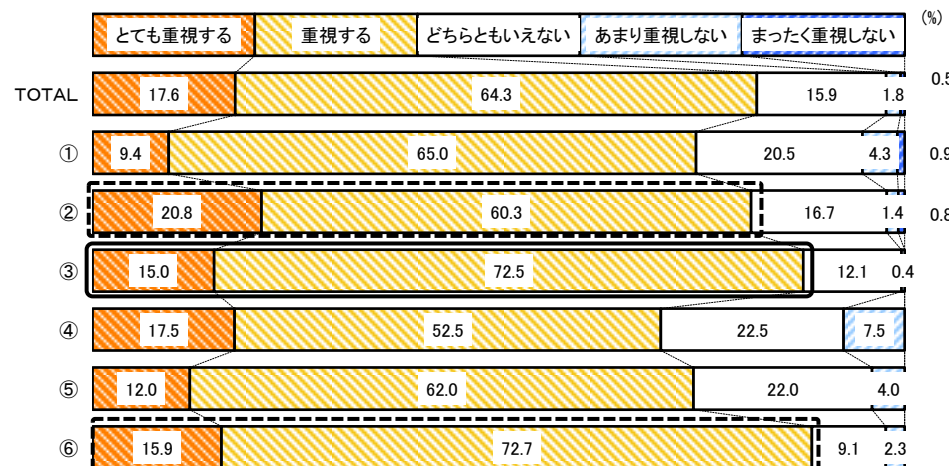
(3) 有効成分の含有量



(2) 有効成分の種類



(4) 安全性(健康被害の事例など)



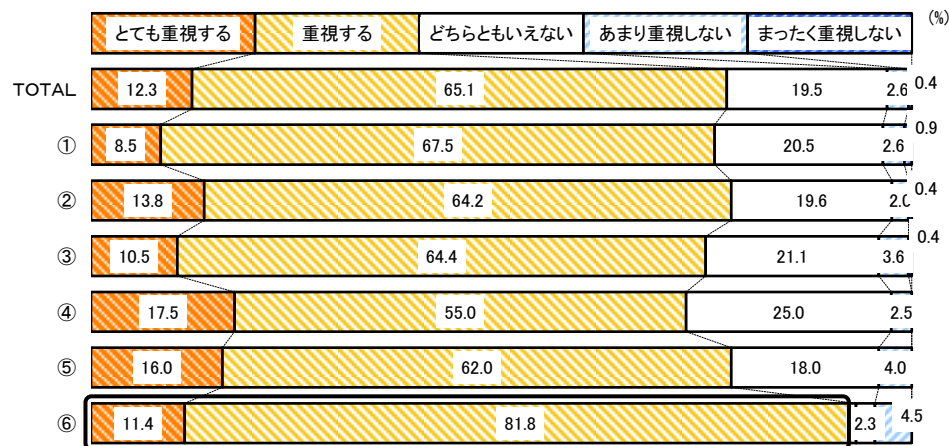
①20~64歳(疾病なし)(n=117)、②20~64歳(何らかの疾病あり)(n=509)、③65歳以上(n=247)、④15~19歳(n=40)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=50)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=44)

6. 過去1年間に「いわゆる健康食品」を摂取した者における購入時に重視する点(2)

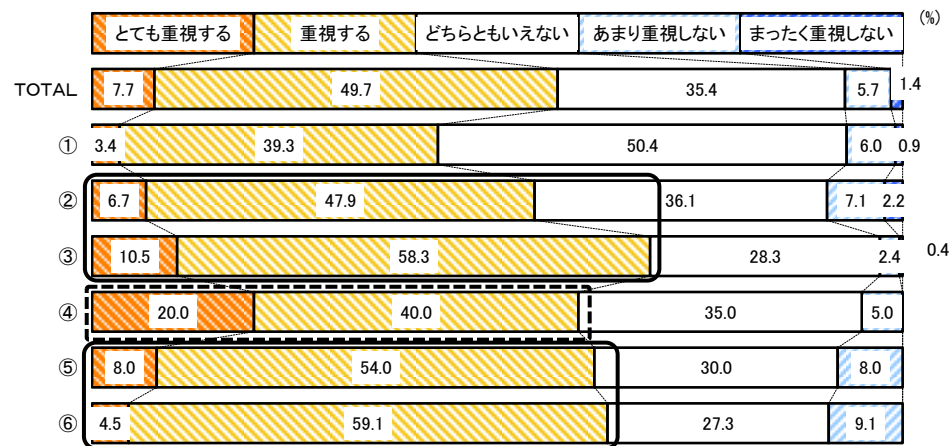
「期待される効果」を重視する者(「とても重視する」と「重視する」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ⑥で有意に高かった。

「ヒトで効果が確かめられていること」、「原材料が天然・自然由来のものであること」を重視する者(「とても重視する」と「重視する」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、ほとんどのグループで有意に高かった。

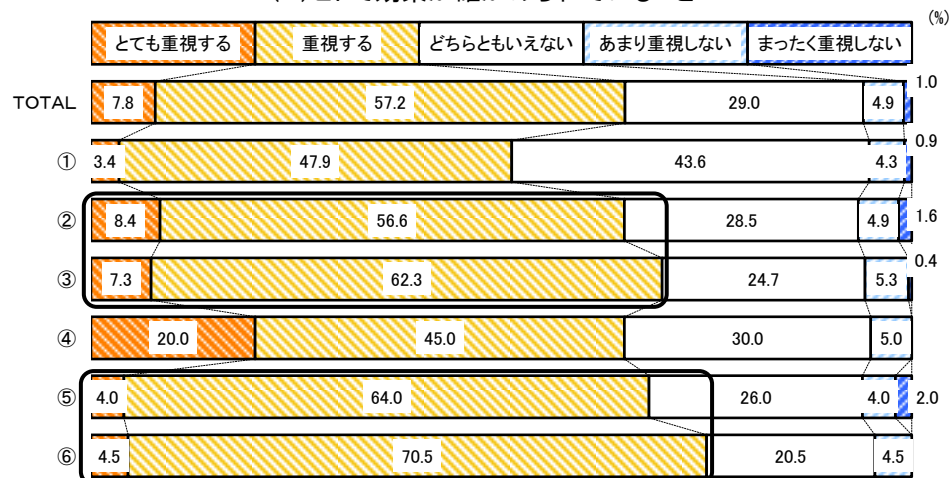
(5) 期待される効果



(7) 原材料が天然・自然由来のものであること



(6) ヒトで効果が確かめられていること



①20～64歳(疾病なし)(n=117)、②20～64歳(何らかの疾病あり)(n=509)、③65歳以上(n=247)、④15～19歳(n=40)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=50)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=44)

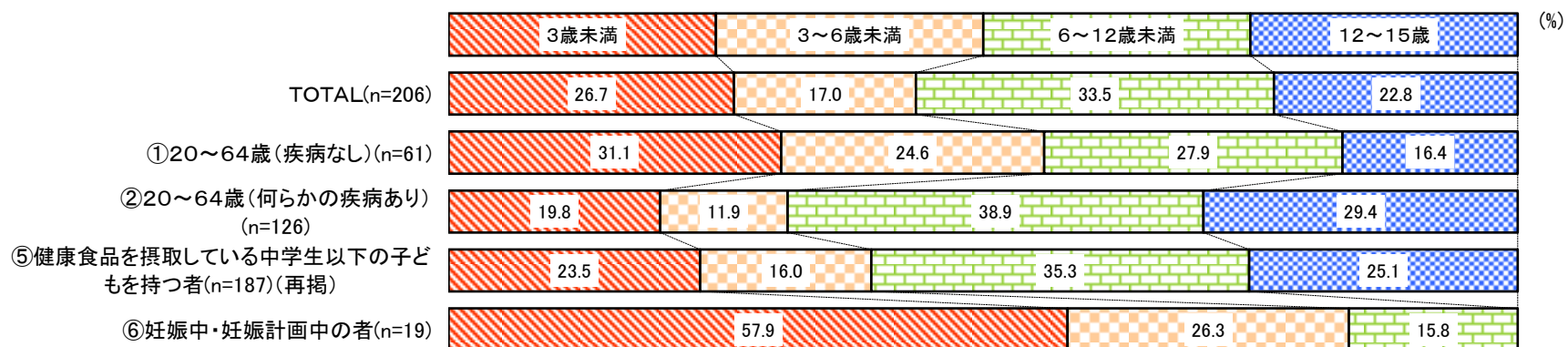
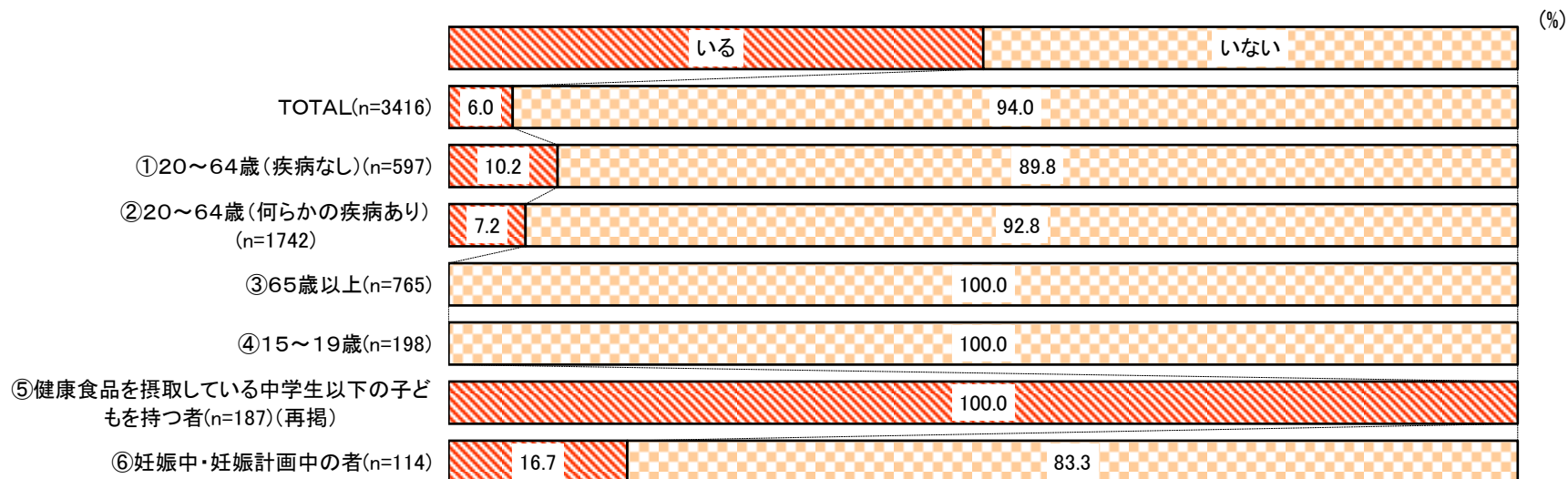
7. 「健康食品」を摂取させている中学生以下の子どもの有無

中学生以下の子どもに「健康食品」を摂取させている者の割合は全体で6.0%であり、グループ⑥では16.7%であった。

問 あなたには、「健康食品」を摂取させている中学生以下のお子様がいらっしゃいますか。いらっしゃる場合は、お子様の年齢もお答えください。

※同居中のお子様についてお答えください。

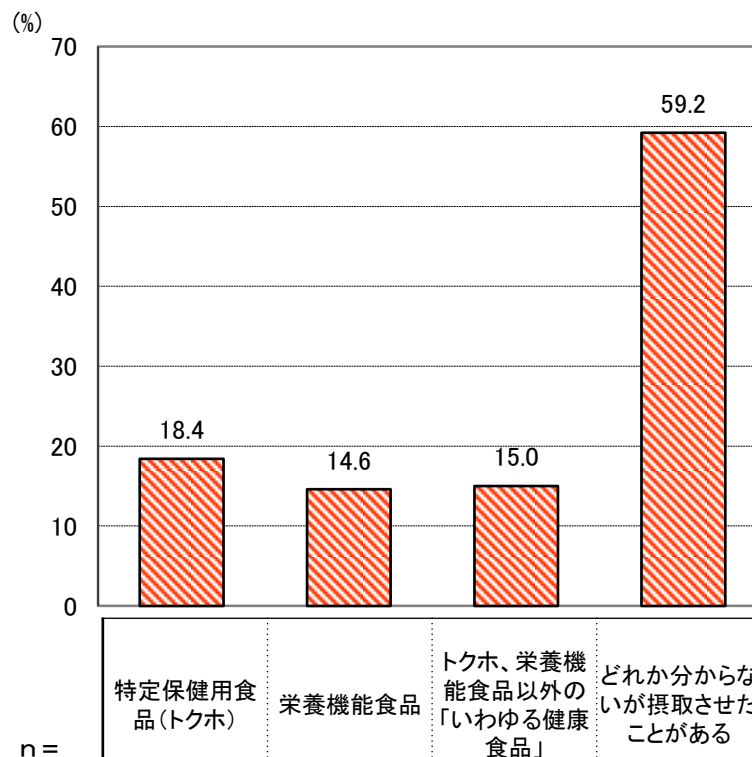
※「健康食品」を摂取させている中学生以下のお子様が複数いらっしゃる場合には、最も摂取頻度の高いお子様についてお答えください。



8. 中学生以下の子どもに摂取させた「健康食品」の種類

最近1年間で子どもに摂取させた「健康食品」の区分は、「どれか分からない」が59.2%と最も多かった。

問 最近1年間であなたがお子様に摂取させた「健康食品」はどれですか。(複数回答)



	n =	特定保健用食品(トクホ)	栄養機能食品	トクホ、栄養機能食品以外の「いわゆる健康食品」	どれか分からないが摂取させたことがある	(%)
TOTAL	206	18.4	14.6	15.0	59.2	
①20~64歳(疾病なし)	61	8.2	8.2	8.2	77.0	
②20~64歳(何らかの疾病あり)	126	24.6	18.3	18.3	50.0	
⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)	187	19.3	15.0	15.0	58.8	
⑥妊娠中・妊娠計画中の者	19	10.5	10.5	15.8	63.2	

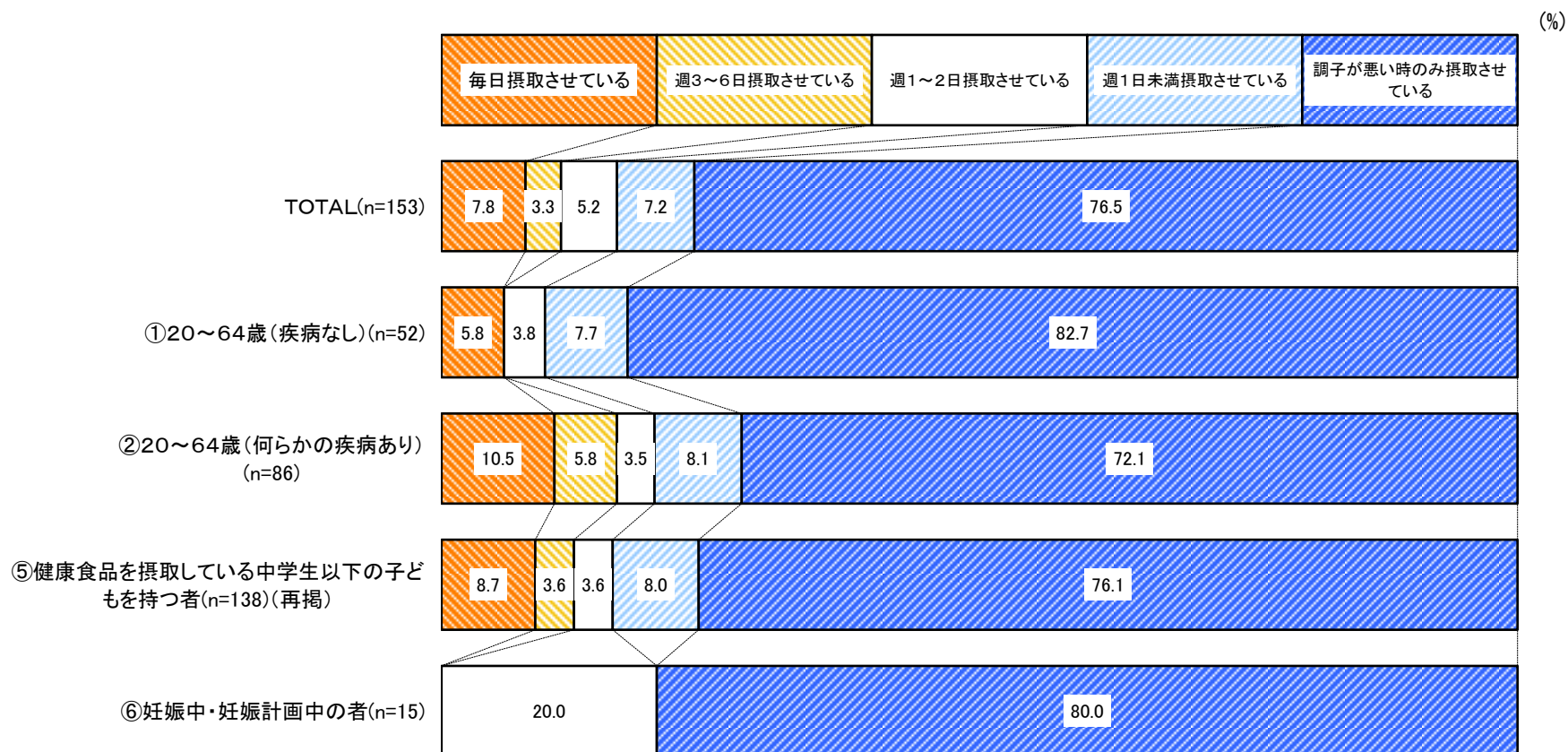
9. 中学生以下の子どもに「いわゆる健康食品」を摂取させる頻度

「調子が悪い時のみ摂取させている」と回答した者の割合が最も高く、全体の76.5%であった。一方、「毎日摂取させている」者の割合は7.8%であった。

問 お子様へ摂取させている「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)、あるいは、特定できない健康食品の摂取頻度をお答えください。

※複数の製品を摂取させている場合、もっとも摂取頻度の高いものについて、お答えください。

(「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)、あるいは「どれか分からないが摂取させたことがある」と回答した者のみ回答)

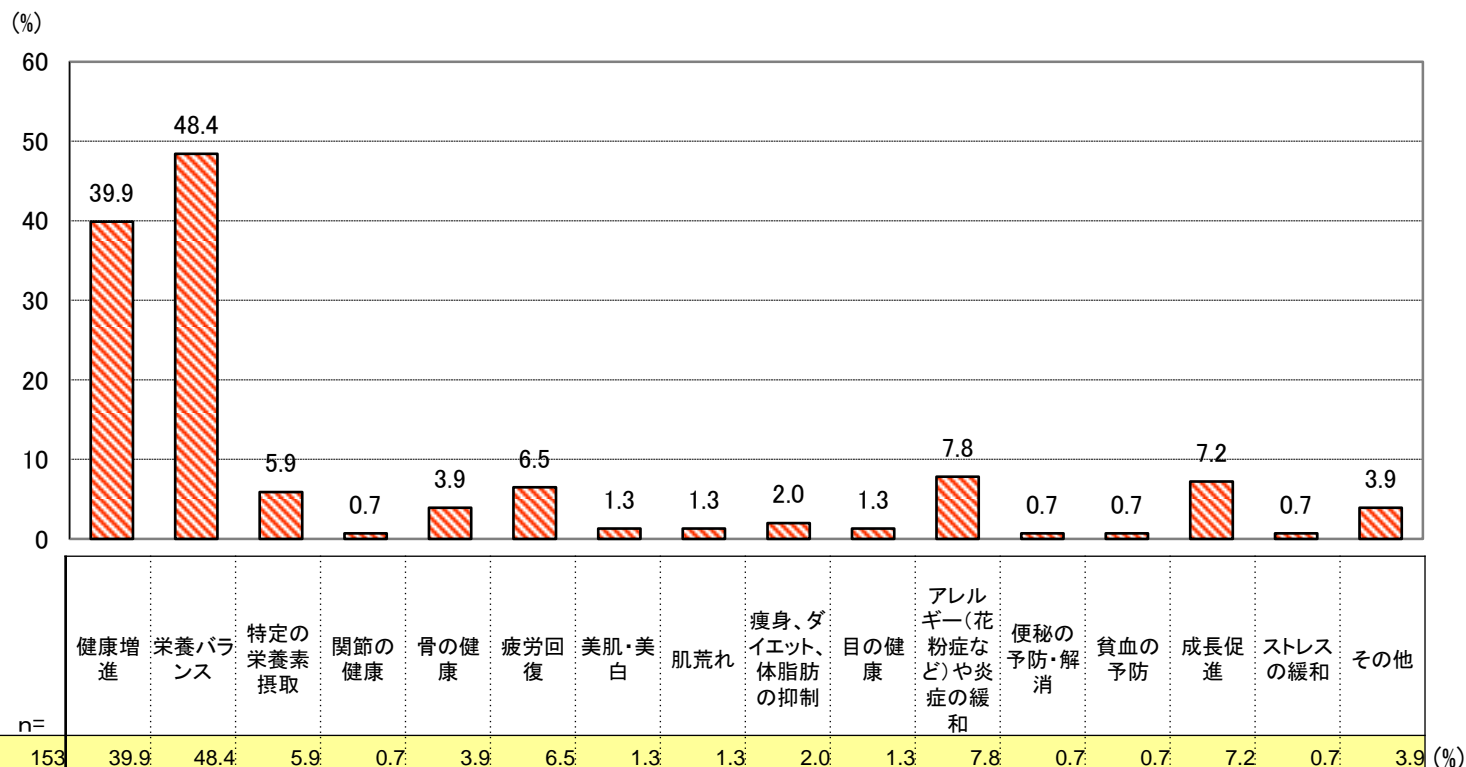


10. 中学生以下の子どもに「いわゆる健康食品」を摂取させている目的

「いわゆる健康食品」を子どもに摂取させている目的は、「栄養バランス」が48.4%と最も多く、次いで「健康増進」(39.9%)であった。

問 あなたがお子様に「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)、あるいは、特定できない健康食品を摂取させている目的をお答えください。(複数回答)

(「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)、あるいは「どれか分からないが摂取させたことがある」と回答した者のみ回答)



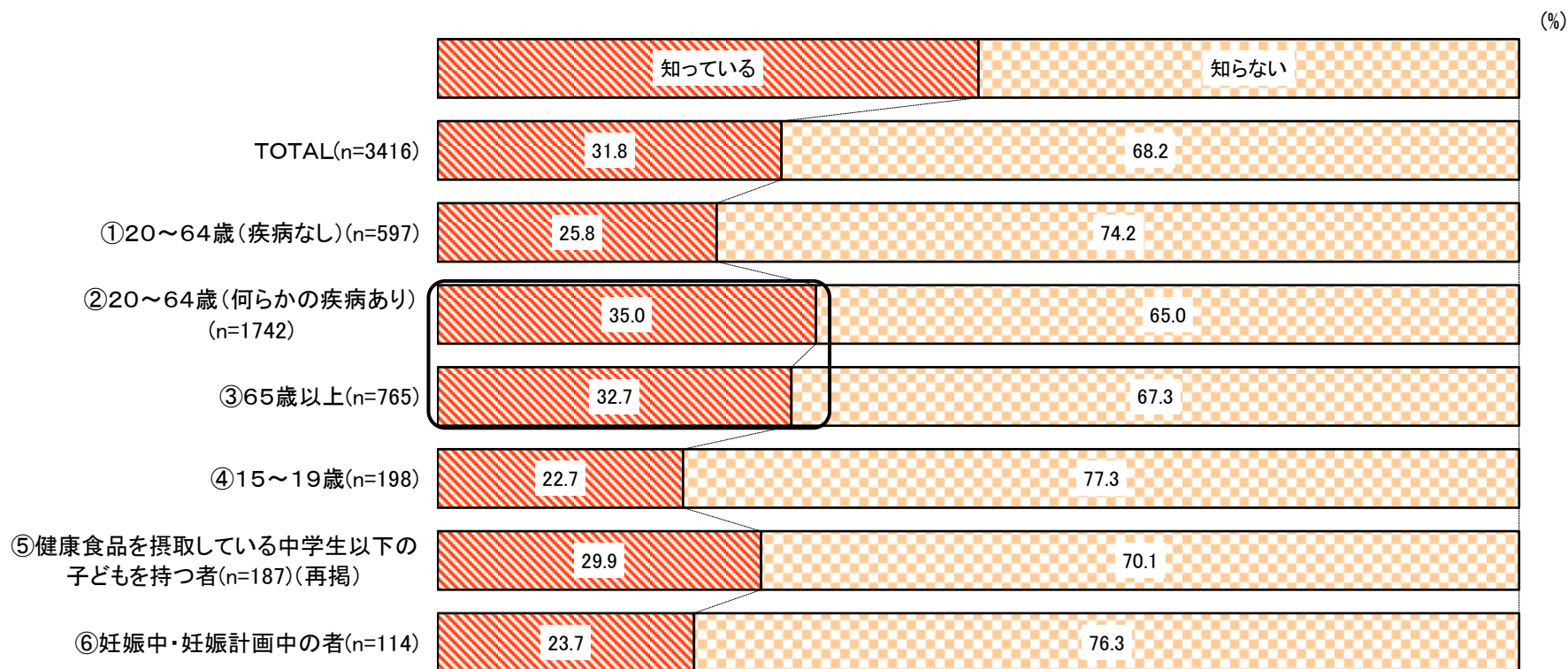
	n=	健康増進	栄養バランス	特定の栄養素摂取	関節の健康	骨の健康	疲労回復	美肌・美白	肌荒れ	痩身、ダイエット、体脂肪の抑制	目の健康	アレルギー(花粉症など)や炎症の緩和	便秘の予防・解消	貧血の予防	成長促進	ストレスの緩和	その他
TOTAL	153	39.9	48.4	5.9	0.7	3.9	6.5	1.3	1.3	2.0	1.3	7.8	0.7	0.7	7.2	0.7	3.9
①20~64歳(疾病なし)	52	48.1	48.1	1.9	0.0	1.9	5.8	1.9	0.0	1.9	1.9	3.8	1.9	0.0	1.9	1.9	3.8
②20~64歳(何らかの疾病あり)	86	36.0	46.5	8.1	1.2	5.8	8.1	1.2	2.3	1.2	1.2	11.6	0.0	1.2	11.6	0.0	2.3
⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)	138	40.6	47.1	5.8	0.7	4.3	7.2	1.4	1.4	1.4	1.4	8.7	0.7	0.7	8.0	0.7	2.9
⑥妊娠中・妊娠計画中の者	15	33.3	60.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3

11. 「いわゆる健康食品」に機能を表示できないことの認知度

全体での認知率は31.8%であった。

グループ①に比べ、グループ②③は認知率が有意に高く、それぞれ35.0%、32.7%であった。

問 現在、「特定保健用食品(トクホ)」と「栄養機能食品」以外、すなわち「いわゆる健康食品」では、“期待される効果”(機能性)の表示が認められていません。あなたはこのことをご存知ですか。



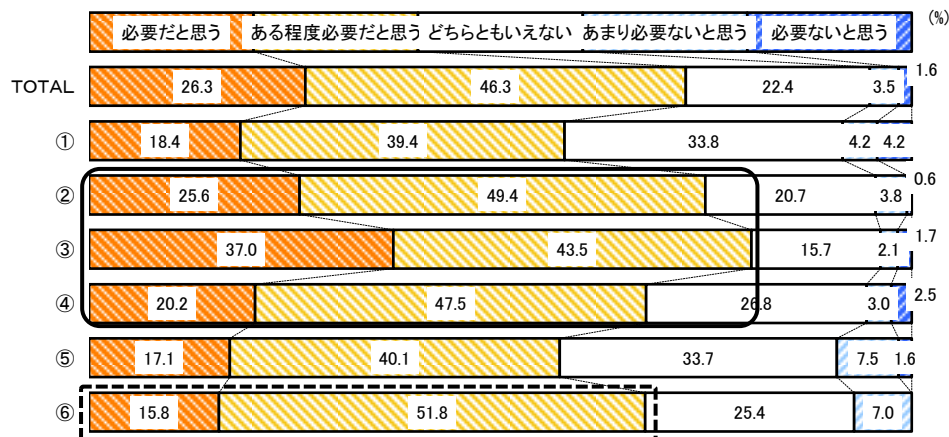
12. 「いわゆる健康食品」に機能性を表示する際に必要な表示事項

「企業の自己責任で製造・販売される製品である表示」が必要だと思う者(「必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ②③④で有意に高かった。

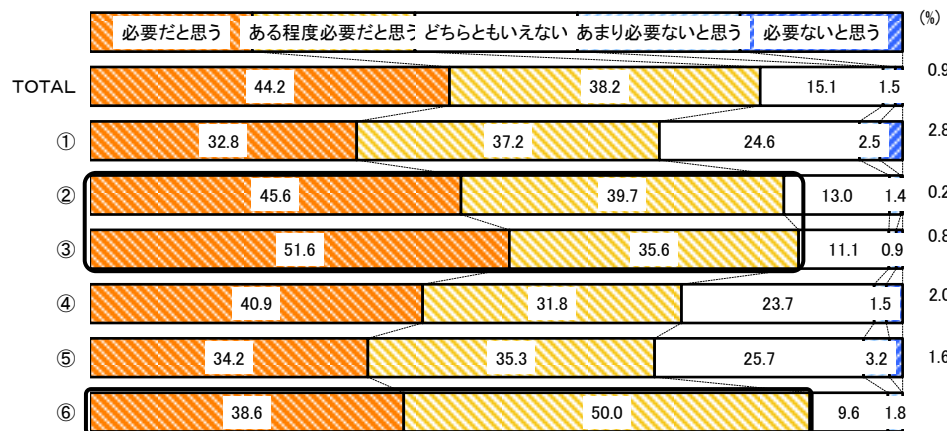
「試験などで安全性が確かめられていることの表示」、「トクホや栄養機能食品と区別がつけられる表示」が必要だと思う者(「必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」者の合計)の割合は、グループ①に比べ、グループ②③⑥で有意に高かった。

問 企業の自己責任のもとで、その製品の“期待される効果”(機能性)の表示を可能にする制度ができた場合、次のような内容の表示が必要だと思いますか。

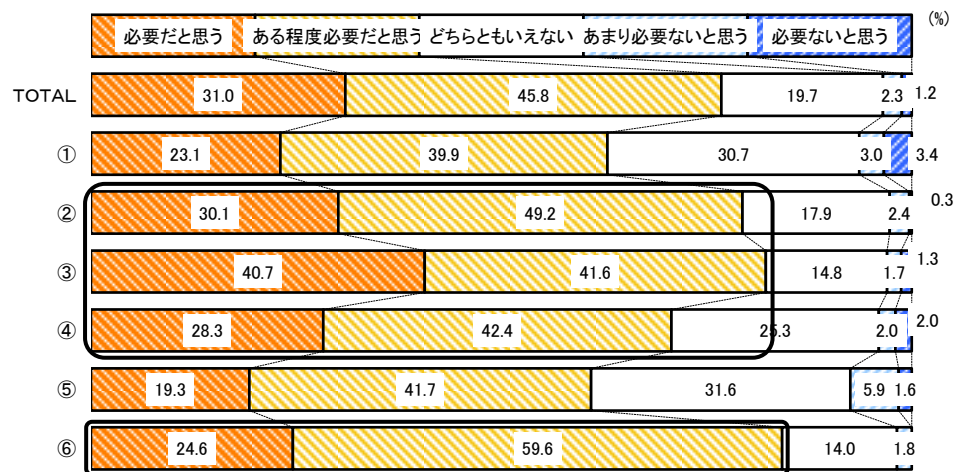
(1) 企業の自己責任で製造・販売される製品である表示



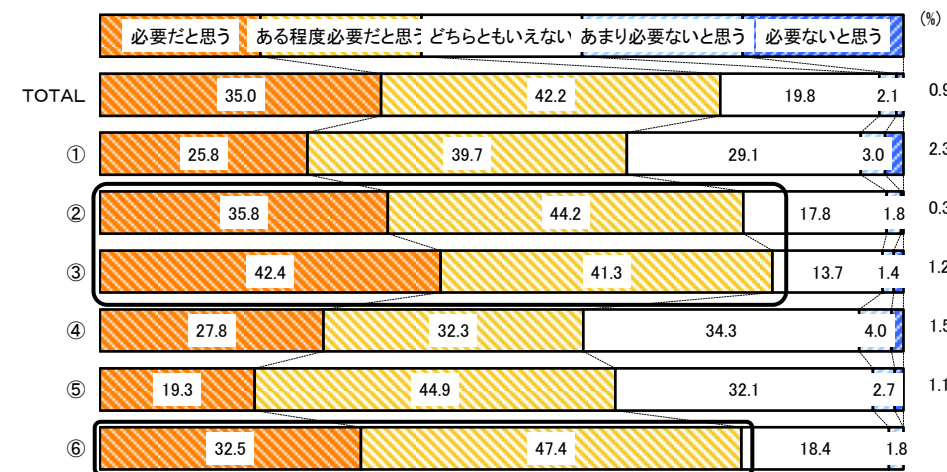
(3) 試験などで安全性が確かめられていることの表示



(2) 試験などで効果が確かめられていることの表示



(4) トクホや栄養機能食品と区別がつけられる表示



①20～64歳(疾病なし)(n=597)、②20～64歳(何らかの疾病あり)(n=1742)、③65歳以上(n=765)、④15～19歳(n=198)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=187)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=114)

13. 米国のダイエタリーサプリメントに基づく表示に対する印象

製品に「この表示は、国によって評価されたものではありません。」等と表示されていた場合、「企業の自己責任で製造・販売される製品である」、「医薬品と区別がつけられる」、「他の食品に比べて消費者の判断力が問われる」と思う者（「とてもそう思う」と「そう思う」の合計）の割合は、いずれも7割近かった。

また、3項目とも、グループ①に比べ、グループ②③⑥で有意に高かった。

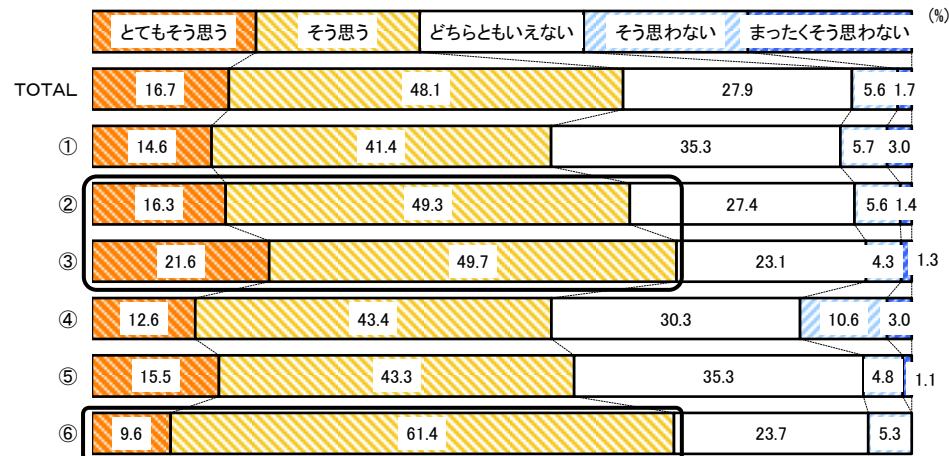
現在検討されている、企業の自己責任のもとで、その製品の“期待される効果”（機能性）の表示を可能にする制度は、アメリカの制度を参考にすることとされています。

アメリカの制度では、“期待される効果”（機能性）の表示とともに、次のような表示をすることが義務付けられています。

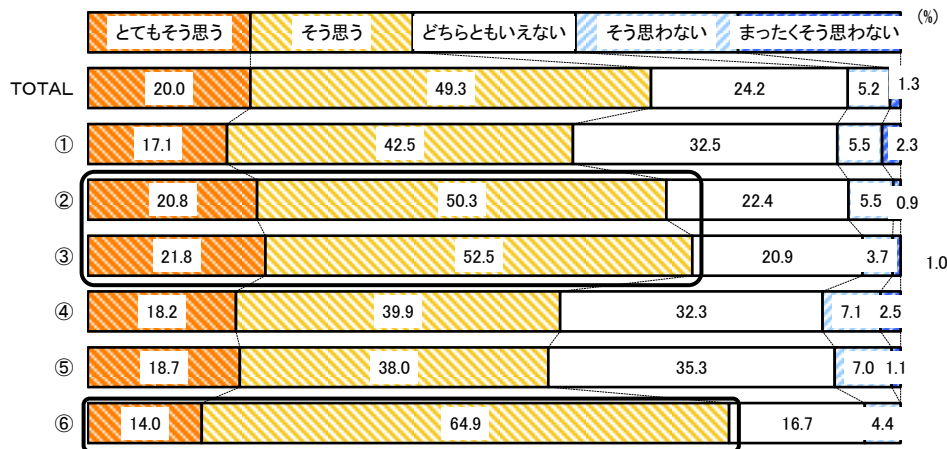
この表示は、国によって評価されたものではありません。
この製品は病気を診断、処置、治療、予防することを目的としたものではありません。

問 この表示を見たときの印象をお答えください。

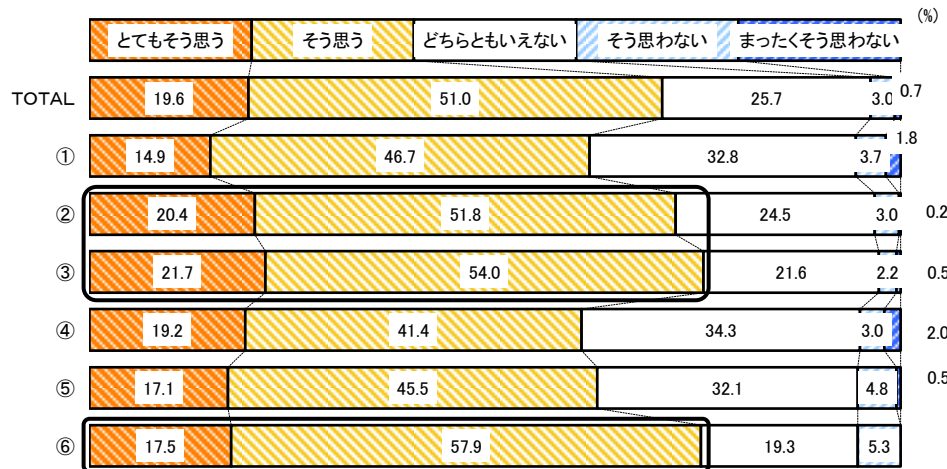
(1) 企業の自己責任で製造・販売される製品である



(2) 医薬品と区別がつけられる



(3) 他の食品に比べて消費者の判断力が問われる



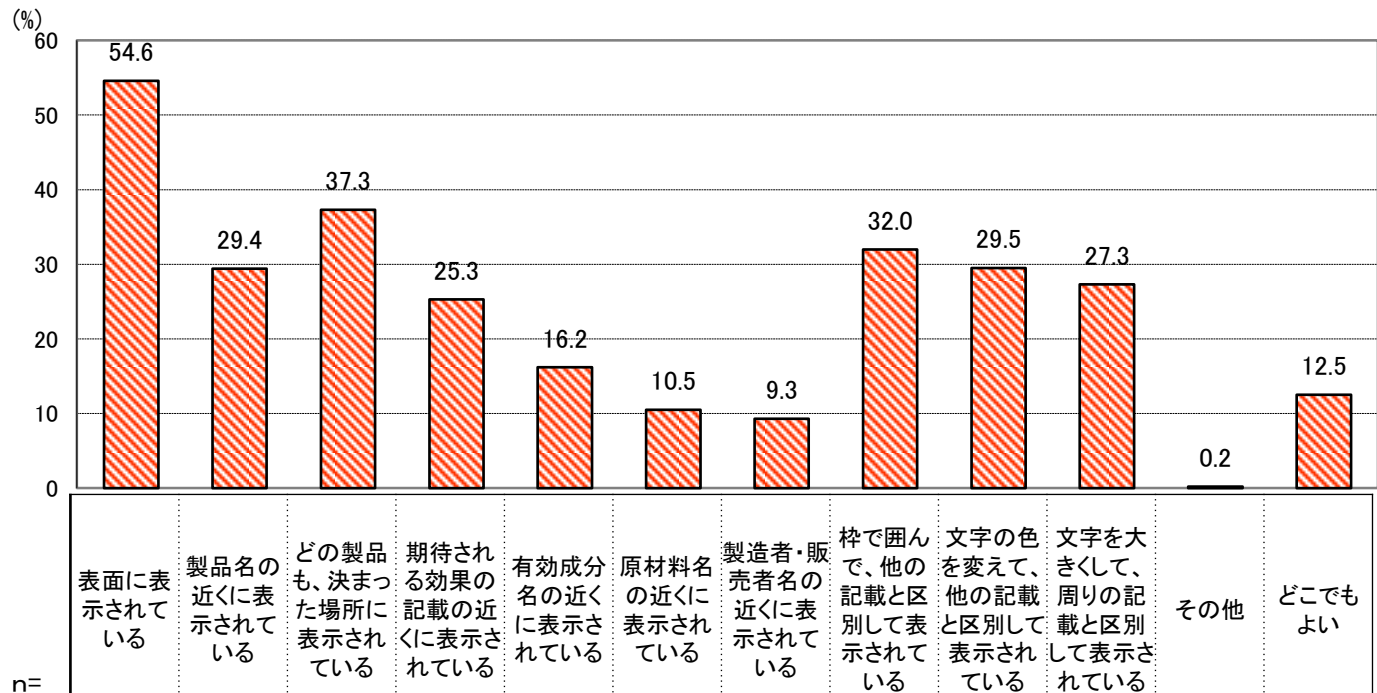
①20～64歳(疾病なし)(n=597)、②20～64歳(何らかの疾病あり)(n=1742)、③65歳以上(n=765)、④15～19歳(n=198)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=187)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=114)

14. 「いわゆる健康食品」に機能性を表示する際の表示の在り方

「表面に表示されている」が54.6%と最も多く、次いで「どの製品も、決まった場所に表示されている」(37.3%)、「枠で囲んで、他の記載と区別して表示されている」(32.0%)であった。

問 次の表示を見てお答えください。「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)に、このような表示をする場合、どのように表示されていると分かりやすいと思いますか。当てはまるものを5つまでお選びください。

この表示は、国によって評価されたものではありません。
この製品は病気を診断、処置、治療、予防することを目的としたものではありません。



	n=	表面に表示されている	製品名の近くに表示されている	どの製品も、決まった場所に表示されている	期待される効果の記載の近くに表示されている	有効成分名の近くに表示されている	原材料名の近くに表示されている	製造者・販売者名の近くに表示されている	枠で囲んで、他の記載と区別して表示されている	文字の色を変えて、他の記載と区別して表示されている	文字を大きくして、周りの記載と区別して表示されている	その他	どこでもよい	(%)
TOTAL	3,416	54.6	29.4	37.3	25.3	16.2	10.5	9.3	32.0	29.5	27.3	0.2	12.5	(%)
①20～64歳(疾病なし)	597	45.9	19.6	28.6	18.6	11.6	9.5	6.5	22.3	20.6	18.4	0.2	24.1	
②20～64歳(何らかの疾病あり)	1,742	57.5	30.9	37.0	26.7	16.1	10.0	7.7	33.5	31.5	28.2	0.3	9.2	
③65歳以上	765	56.5	36.5	45.6	29.3	20.8	12.8	15.8	35.9	32.7	34.4	0.1	8.6	
④15～19歳	198	47.5	25.3	32.8	16.7	14.1	8.6	8.1	24.7	22.2	20.2	0.0	22.7	
⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)	187	45.5	20.9	24.1	12.3	13.4	10.2	3.7	16.6	19.3	15.0	0.0	21.4	
⑥妊娠中・妊娠計画中の者	114	55.3	16.7	39.5	27.2	13.2	11.4	6.1	44.7	36.8	26.3	0.0	10.5	

15. 「いわゆる健康食品」に機能性を表示する際に最低限必要な試験

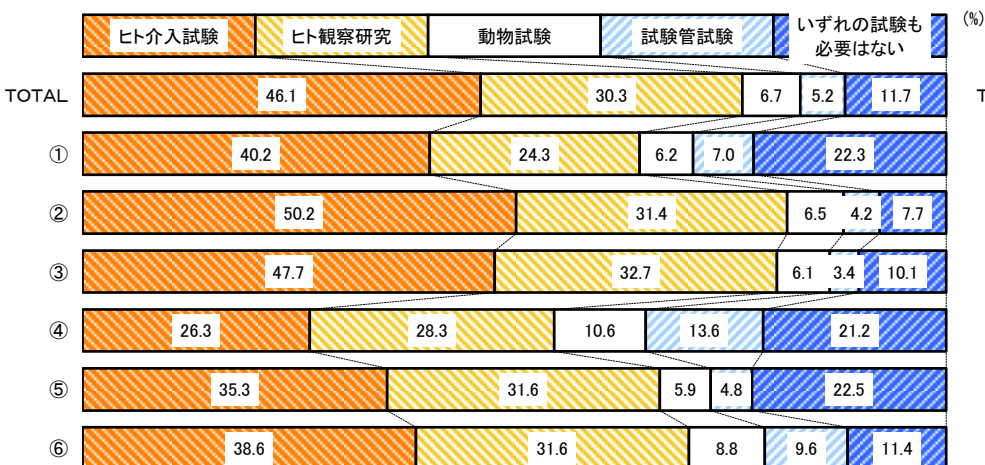
いずれの項目でも、「ヒト研究」を最低限必要と思う者(「ヒト介入試験」又は「ヒト観察研究」と回答した者)は全体の6割以上であった。グループ①②③において、「いわゆる『サプリメント』形状のもの」について「ヒト介入試験」が最低限必要と回答した者の割合は、「サプリメント形状ではない加工食品」や「生鮮食品」に比べて有意に高かった。

食品の“期待される効果”(機能性)は、次のような試験・研究によって確認されています。

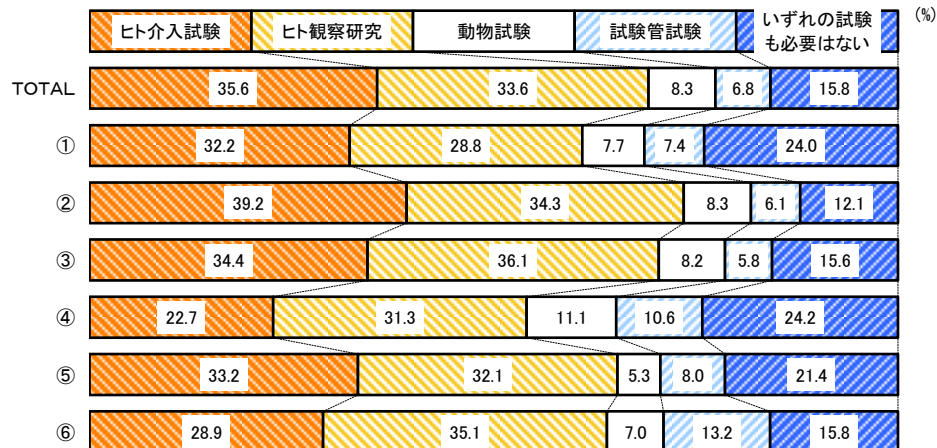
「試験管試験」・・・試験管や培養器などの中でヒトや動物の組織を用いて、当該成分の作用を調べる試験
「動物試験」・・・マウスなどの実験動物を用い、生体内に直接被験物質を投与し、生体内や細胞内での当該成分の作用を調べる試験
「ヒト観察研究」・・・例)地域住民を対象に、ある成分又は食品の摂取状況と健康状態について、アンケートなどで調べ、両者の関連性について評価する研究 (ある成分又は食品を一定量摂取してもらった研究ではないため、摂取による健康影響を直接評価することはできない。)
「ヒト介入試験」・・・例)調査参加者を対象に、ある成分又は食品を一定量摂取してもらった群と、摂取しない群に分け、その摂取が健康状態におよぼす影響について、直接評価する研究

問 あなたが「いわゆる健康食品」(トクホ、栄養機能食品以外)を摂取する場合、最低限、どの試験でその製品の“期待される効果”(機能性)が確認されていればよいと思いますか。

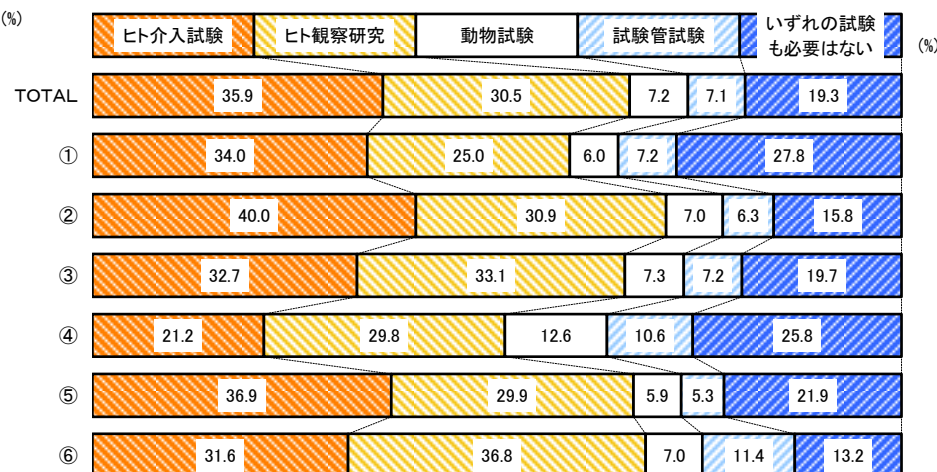
(1)いわゆる「サプリメント」形状のもの(錠剤等)



(2)サプリメント形状ではない加工食品(お菓子等)



(3)生鮮食品(野菜・くだもの等)



①20～64歳(疾病なし)(n=597)、②20～64歳(何らかの疾病あり)(n=1742)、③65歳以上(n=765)、④15～19歳(n=198)、⑤健康食品を摂取している中学生以下の子どもを持つ者(再掲)(n=187)、⑥妊娠中・妊娠計画中の者(n=114)